と雖も新発意の如くにて一門まで佐竹権右衛門を海林市
良平八澤源之丞に名聞力にて是等八一館々々の一騎駆
にて縁辺の新発意水堂の睦び利まさまば近境遠境
打続いて実に白土の高障もなく明け暮れしが或時右の輩
呼集め酒宮年の新年堀田右衛門宮仕へ山形義光
世に呼けり出でる事疑ひ相違なれども明人思陽ざ
るを中八雲云へ義光を討たんとも天下の安危定まらず時
冨家の内教書に事なせし軍兵附従ものなれば義光
味方に及ばず関東まで攻登りたりとなるべきの法
師を始め一座の者共に疑ひなく新参の時長うか
うかとして居べきにあらず国をば取られて世に居た
先ずる時いくを制し後に時いくを制せらるを平人に先ん
せらるる先に早く義光を攻めんと異口同音に申し
けまば十郎従妻不法頗る尾列 織田信長公大変之
是は馬一疋献して羽州の主まてんと誓書を捧げ猶以て
国中施行せん為頼附の御教書を望まるべ信長公
も遠国なるまて御の内存知まちまで会頼に仕るの
を賜はらんと仰出さる豊臣内々廻文を以て侍士を集む